

令和5年度

島根県公立高等学校
入学者選抜の結果と分析

令和5年6月

島根県教育委員会

令和5年度島根県公立高等学校入学者選抜について

令和5年度島根県公立高等学校入学者選抜は「令和5年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針」及び「令和5年度島根県公立高等学校入学者選抜実施要綱」に基づいて、39校（全日制課程36校（分校含む）72学科 入学者定員5,100人、定時制課程3校8学科（部）入学者定員360人）で行われた。

その概要は次のとおりである。

1 入学者選抜の基本方針について

令和5年度島根県公立高等学校入学者選抜の基本方針

島根県教育委員会

松江市教育委員会

1 選抜全般について

(1) 一般選抜、推薦選抜、スポーツ特別選抜、中高一貫教育校(連携型)特別選抜を実施する。

ア 一般選抜においては、出願後1回に限り志願変更を認める。

イ 一般選抜における合格発表の時点で、欠員が生じたすべての学校・学科において、第2次募集を実施する。

ウ 推薦選抜の募集人員は、体育科を除き当該学科の入学定員の40%程度までで各学校が定めることとする。

エ 推薦選抜、スポーツ特別選抜、中高一貫教育校(連携型)特別選抜においては、各高等学校が「求める生徒像」(※1)をもとに出願資格や出願書類を定め、各校において適正な選抜を実施する。

(※1) 「求める生徒像」とは、令和3年3月の学校教育法施行規則の一部改正により、高等学校の特色化・魅力化に関

して各校が策定することとされた方針(いわゆるスクール・ポリシー)のうち、「入学者の受入れに関する方針

を指す。

(2) 県外からの合格者上限4名を超える高等学校の生徒の募集については、別に定める。

(3) 松江市内、出雲市内にある県立高等学校全日制課程4校(松江北高校、松江南高校、松江東高校、出雲高校)の普通科については、地域外の合格者の割合を入学定員の10%(出雲高校は5%)以内に制限する。

(4) 通信制課程においては、前期(4月)入学及び後期(10月)入学のための選抜を実施する。

2 一般選抜学力検査について

(1) 問題作成

ア 学力検査問題は、島根県教育委員会及び松江市教育委員会において作成する。

イ 学力検査問題の作成にあたっては、委員等の人選及び作業の過程について細心の注意を払うこととする。

(2) 出題方針

高等学校教育を受けるに足る資質と能力が正しく判定でき、かつ、中学校教育をゆがめることなく、その充実に資することができるよう十分留意して、次の方針により出題する。

ア 中学校学習指導要領に示されている各教科の目標・内容に即して、問題の内容と程度を定める。

イ 単に知識や技能を問うのみでなく、知っていること・できることをどう使うかという観点で思考力、判断力、表現力等を問うことのできる問題を作成する。

(3) 学力検査の実施

ア 実施教科

中学校の国語、社会、数学、理科、英語の5教科で実施する。

イ 実施期日

令和5年3月7日（火）

公立高等学校全日制課程、定時制課程について、一斉に実施する。

ウ 学力検査場

公立高等学校を学力検査場にあてるとともに、その管理は、各高等学校に設ける学力検査実施委員会が担当する。

受検者は志願先高等学校で受検する。ただし、特別な事情により最寄りの学力検査場で受検を希望する者については、最小限の特別措置を図ることとし、これについては別途指示する。

エ 実施時間・配点

実施時間は各教科50分とし、配点は1教科50点満点、合計250点とする。

(4) 採点

採点場は、別に定める公立高等学校とし、採点者には採点場ごとに設ける学力検査実施委員会の委員をあてる。

(5) 追検査

実施期日は令和5年3月13日（月）の1日とし、面接及び実技を実施する場合もこの日のうちに行う。なお、実施教科及び実施時間は本検査と同じとする。ただし、対象者は学力検査当日の特別措置によっても対応できず、やむを得ず欠席した者とする。

3. その他

この基本方針に定めるもののほか、必要な事項は、令和5年度島根県公立高等学校入学者選抜実施要綱で定める。なお、今後の新型コロナウイルス感染症の状況等によっては方針等を変更する場合がある。

2 推薦選抜，スポーツ特別選抜，中高一貫教育校（連携型）の特別選抜

入学願書の受付は、令和5年1月11日（水）から1月16日（月）12時までの間に行われ、令和5年1月26日（木）に合格内定が通知された。

(1) 推薦入学者選抜（推薦選抜）

昭和57年度から実施している推薦入学者選抜（以下「推薦選抜」という。）は、今年度34校64学科（昨年度33校63学科）で募集し、33校62学科（昨年度33校62学科）で行った。

募集人員については平成17年度から「当該学科の入学定員の50%程度まで」としていたが、平成23年7月の島根県教育課程審議会答申「島根県立高等学校の入学者選抜方法の改善について」を受け、「体育科を除き当該学科の入学定員の40%程度までで各校が定めること」とした。その結果、表1に示す各高校・学科・募集人員で実施された。選抜にあたっては、中学校から推薦された者について調査票等を含めた書類審査及び面接等を行った。

この募集に対して本年度は904人（昨年度892人）の出願者があり781人（昨年度800人）が合格した。推薦選抜の制度は、一般の入学者選抜に比べ、特に学力検査では評価しがたい、その学校や学科にふさわしい多面的な能力・適性等を評価した選抜を行うところにその意義がある。各高等学校は、中学校と連携しながら、この制度の活用について検討してもらいたい。

表 1 推薦選抜募集人員（％は入学定員に対する比率を示す）

推薦選抜募集人員	学 校 名 (学 科 名)
60%	大社高校 (体育科)
40%	松江工業高校 (全学科) 松江商業高校 (全学科) 松江農林高校 (全学科) 出雲工業高校 (全学科) 出雲商業高校 (全学科) 出雲農林高校 (全学科) 邇摩高校 (総合学科) 島根中央高校 (普通科) 江津工業高校 (全学科) 益田翔陽高校 (全学科) 津和野高校 (普通科) 松江市立皆美が丘女子高校 (国際コミュニケーション科)
35%	浜田商業高校 (全学科)
30%	情報科学高校 (全学科) 矢上高校 (全学科) 隠岐島前高校 (全学科)
25%	大東高校 (普通科) 平田高校 (普通科) 江津高校 (普通科) 浜田水産高校 (全学科) 吉賀高校 (普通科) 松江市立皆美が丘女子高校 (普通科)
20%	松江南高校 (探究科学科) 三刀屋高校 (総合学科) 飯南高校 (普通科) 出雲高校 (理数科) 浜田高校 (理数科) 隠岐高校 (普通科) 隠岐水産高校 (全学科)
13%	安来高校 (普通科)
10%	松江東高校 (普通科) 横田高校 (普通科) 三刀屋高校掛合分校 (普通科) 大社高校 (普通科) 隠岐高校 (商業科)
2%	松江北高校 (普通科)

(2) スポーツ推進指定校推薦入学者選抜（スポーツ特別選抜）

スポーツ推進指定校推薦入学者選抜（以下「スポーツ特別選抜」という。）は、体育系の部活動の活性化を図るとともに、優秀な選手を育成し競技力を向上させ、また県内におけるスポーツ活動を活性化して生涯スポーツの発展を図るため平成14年度から実施しているものである。令和3年度選抜より重点校の見直しに伴い、スポーツ特別選抜実施校及び実施競技も見直しがなされた。表2の指定競技・実施校において募集したところ、49人（昨年度42人）が出願し、49人（昨年度41人）が合格した。

表2 スポーツ特別選抜実施校及び指定競技

実施校	指定競技	
	男子	女子
安来高等学校	バレーボール フェンシング	バレーボール フェンシング
松江東高等学校	バスケットボール	ボート
松江工業高等学校	ソフトテニス バレーボール フェンシング レスリング	
松江商業高等学校		バスケットボール サッカー
横田高等学校	ホッケー	ホッケー
三刀屋高等学校	ソフトボール	
平田高等学校	柔道	
出雲高等学校	弓道	弓道
出雲農林高等学校	ウェイトリフティング カヌー	ウェイトリフティング カヌー
大社高等学校	陸上競技 剣道 体操	陸上競技 剣道 体操
島根中央高等学校	カヌー	カヌー
江津高等学校	水球	
江津工業高等学校	ボート	
浜田高等学校	体操	体操
隠岐島前高等学校	レスリング	レスリング

(3) 中高一貫教育校（連携型）に係る入学者選抜（特別選抜）

中高一貫教育校（連携型）に係る入学者選抜（以下「特別選抜」という。）は、平成13年度に中高一貫教育を導入した飯南高校と吉賀高校で平成14年度入学者選抜から実施された。

飯南高校は頓原中学校又は赤来中学校，吉賀高校は柿木中学校，吉賀中学校又は六日市中学校に在籍する生徒を対象として，学力検査を用いない入学者選抜を実施し，飯南高校に23人（昨年度36人），吉賀高校に25人（昨年度17人）の出願があり，飯南高校23人（昨年度36人），吉賀高校20人（昨年度17人）が合格した。

3 一般選抜

(1) 出願状況

入学願書の受付は、令和5年1月30日（月）から令和5年2月2日（火）12時までの間に行われた。入学定員から推薦選抜等の合格内定者数を除いた一般選抜募集定員4,587人（全日制4,227人、定時制360人）に対して、4,016人（全日制3,873人、定時制143人）が出願した。

志願変更の受付は、令和5年2月9日（木）から令和5年2月15日（水）17時までの間に行われた。他の学校に志願変更した者は39人（昨年度53人）、同一学校の他の学科に志願変更した者は26人（昨年度22人）であった。この結果、志願変更後の第1志望学科への出願状況は表3のとおりであった。

表3 出願者の状況（志願変更後）

（ ）内は令和4年度選抜の数字

種別 課程	入学定員	推薦選抜等 合格内定者 (注1)	一般選抜 募集定員 (注2)	志願変更後		志願変更前
				一般選抜 出願者数	対募集定員 競争率(注 3)	一般選抜 出願者数
全日制	5,100 (5,140)	873 (894)	4,227 (4,246)	3,873 (3,842)	0.92 (0.90)	3,873 (3,843)
定時制	360 (360)	— (—)	360 (360)	143 (140)	0.40 (0.39)	143 (139)
計	5,460 (5,500)	873 (894)	4,587 (4,606)	4,016 (3,982)	0.88 (0.86)	4,016 (3,982)

注1 推薦選抜、中高一貫教育校に係る特別選抜、スポーツ特別選抜の合格内定者の合計

注2 入学定員から推薦選抜等合格内定者数を除いたもの

注3 一般選抜出願者数を募集定員で割ったもの

(2) 受検状況

令和5年度島根県公立高等学校入学者選抜学力検査は、令和5年3月7日（火）県内37会場において、国語、数学、社会、英語、理科の順に各教科50分、1教科50点満点、合計250点で行った。

今年度の一般選抜の受検者数は3,799人、欠席者数は出願者の5.4%に当たる217人であった。欠席の理由は表4に示したとおりであるが、本年度も高専合格や私立高校合格のため受検を辞退した者が大半を占めている。なお、欠席者のうち病気等による追検査の対象者に対しては、令和5年3月13日（月）に追検査を実施した。

表4 欠席者数と欠席理由

（ ）内は令和4年度選抜の数字

種別 課程	欠席者数	欠 席 理 由					
		病 気	松 江 高 専 合 格 者	県 内 私 立 合 格 者	県 外 高 校 等 合 格 者	就 職	そ の 他
全日制	212 (199)	10 (13)	113 (120)	50 (44)	29 (18)	0 (0)	10 (4)
定時制	5 (14)	2 (1)	0 (0)	2 (8)	1 (0)	0 (0)	0 (5)
計	217 (213)	12 (14)	113 (120)	52 (52)	30 (18)	0 (0)	10 (9)

(3) 選抜方法

「高等学校長は、入学志願者については、出身中学校等の校長から提出された個人調査報告書、学力検査成績、自己申告書等に基づいて、各高等学校、学科等の特色に配慮しつつ、その教育を受けるに足る能力・適性等を判定して選抜する」（入学者選抜実施要綱より）という入学者選抜の基本方針に基づいて選抜を行った。

個人調査報告書と学力検査の比率については、80:20、70:30、60:40、50:50及び40:60の中から各高校が学科ごとに選択決定することとしている。今年度は39校（分校及び併設時制を含む）のうち、70:30が1校（昨年度1校）、60:40が16校（昨年度16校）、50:50が15校（昨年度15校）、40:60が8校（昨年度8校）であった（学科により比率が異なる学校あり）。

この比率に基づいて総点を算出するが、60:40の場合、個人調査報告書の「学習の記録」を51点、「特別活動の記録」を9点の計60点に、さらに学力検査（1教科50点満点、合計250点）の成績を40点に換算し、合計100点満点となるよう点数化する。

平成15年度から、学力検査後に面接及び実技検査を実施する場合には、各学校が10点を限度として総点に加え選抜の資料にすることができることとした。

(4) 傾斜配点

「学校・学科の特色に応じた学力をみるために、学力検査の特定の教科の得点を重くみる傾斜配点」（入学者選抜実施要綱より）は昭和62年度から導入しているが、今年度実施した学校はなかった。

(5) 合格状況及び第2次募集

合格発表は令和5年3月16日（木）各校のホームページ上で行われ（西部・隠岐 10時、東部 10時30分）、推薦選抜等の合格内定者を含め、4,536人（全日制4,408人、定時制128人）が合格した。

令和5年3月16日（木）の合格発表の時点で、入学定員に欠員がある全日制課程及び定時制課程の各学校・学科では第2次募集を実施した。令和5年3月22日（水）に、個人調査報告書、一般選抜学力検査の結果、作文、面接結果等の資料を基にして総合的に選抜を行い、33人（昨年度28人）が受検し26人（昨年度22人）が合格した。なお、第2次募集までの合格者を含めると、最終的な合格者数は、表5に示すとおり4,562人（全日制4,423人、定時制139人）であった。

表5 合格者の状況

（ ）内は令和4年度選抜の数字

種別 課程	合格者数			合格者 総数	合格者のうち		合格者のうち 地域外 対象人数
	推薦選抜等	一般選抜	第2次募集		県内	県外 海外	
全日制	873 (894)	3,535 (3,514)	15 (15)	4,423 (4,423)	4,213 (4,240)	210 (183)	48 (55)
定時制	— —	128 (116)	11 (7)	139 (123)	139 (123)	0 (0)	— —
計	873 (894)	3,663 (3,630)	26 (22)	4,562 (4,546)	4,352 (4,363)	210 (183)	48 (55)

4 学 力 検 査

(1) 出題方針

学力検査問題の作成にあたっては、中学校学習指導要領に示されている各教科の目標に沿って、平素の学習で積み上げられた受検者の学力が十分に判定できるように、問題内容を精選して出題した。出題形式は、単なる知識の検査にならないように、思考力、判断力、表現力等をみるために記述式、論述式の問題を出題した。また、身近なものを題材とした問題作成に努めた。放送による聞き取りの問題については、英語において実施した。

県内中学校・高校の各教科を担当する教員を対象とした学力検査に対する意識調査（学力検査の難易度及び分量について）の結果は表6のとおりであった。

(2) 得点状況

学力検査の得点状況は、表7、表8に示すとおりであった。5教科総合の平均点は139.2点で昨年度より6.0点高かった。教科別の平均点は、国語が30.6点（昨年度より+1.6点）、社会が27.9点（昨年度より-2.6点）、数学が26.3点（昨年度より+1.6点）、理科が29.8点（昨年度より+2.9点）、英語が24.6点（昨年度より+2.4点）であった。表9は得点の分布状況をグラフに示したものである。

10ページ以降では、各高校で全受検者の約1割を抽出して行った調査に基づき、教科別に分析結果を示す。

表6 各教科を担当する教員の学力検査に対する意識調査結果

(中学校 99校 高校 39校)

(単位：%)

教科	校 種	内容の程度			問題の分量		
		もっと 下げる	ほぼ適当	もっと 上げる	多 い	ほぼ適当	少 ない
国 語	中学校	2.0	91.9	6.1	2.0	97.0	1.0
	高 校	0.0	94.9	5.1	15.4	84.6	0.0
社 会	中学校	1.0	88.9	10.1	2.0	96.0	2.0
	高 校	2.6	92.3	5.1	10.5	89.5	0.0
数 学	中学校	3.0	95.0	2.0	6.1	93.9	0.0
	高 校	0.0	97.4	2.6	7.7	92.3	0.0
理 科	中学校	2.0	84.9	13.1	4.0	95.0	1.0
	高 校	0.0	79.5	20.5	0.0	97.4	2.6
英 語	中学校	4.0	96.0	0.0	8.1	91.9	0.0
	高 校	7.7	89.7	2.6	7.7	89.7	2.6

表7 平均点・標準偏差・最高点・最低点

項目	平均点	標準 偏差	最高点	最低点	項目	平均点	最高点	最低点
教科	令和5年度				教科	令和4年度		
国語	30.6	8.6	49	1	国語	29.0	49	4
社会	27.9	9.0	49	0	社会	30.5	50	2
数学	26.3	10.5	50	0	数学	24.7	49	0
理科	29.8	11.6	50	0	理科	26.9	50	0
英語	24.6	11.4	50	0	英語	22.2	50	0
総得点	139.2	45.6	243	10	総得点	133.2	241	22

表8 総得点分布

得点	令和5年度	令和4年度
220点以上	98	46
200～219	286	199
180～199	442	387
160～179	538	496
140～159	563	574
120～139	547	589
100～119	485	540
80～99	432	475
60～79	258	299
60点未満	150	164
計	3,799	3,769

表9 得点の相対度数分布

